

名古屋都市圏における駅前広場の現状と利用者が求めている姿

中部大学 学生員 ○鈴木 義隆
中部大学 正 員 竹内 伝史
中部大学 尾崎 武志 田上 雅

1. はじめに

駅前広場は交通結節機能を果たすための場として、駅の前に整備されてきたが、近年では新しい街の中心・玄関として位置付けられるようになってきている。そのために以前とは使われ方や対応の仕方、又要求される機能なども変化してきているにもかかわらず、現存する駅前広場の多くは、交通結節機能だけを果たすための施設として整備されてきたため、現在のニーズに十分対応出来ていない。そのために、駅前広場は利用者の立場からみると、利用しにくい箇所や不便な問題が生じてきており、再整備を望む声も多く聞かれる。

よって本研究では、利用者サイドからみた駅前広場評価を行うために、アンケート調査を行い、その結果を用いることにより、現状の整備実態と利用者の評価との比較検討を行い、更にそれらの評価の結果から利用者が求めている使いやすい駅前広場の姿を探ることにする。

2. アンケート調査の概要と駅の選定

アンケート調査の対象駅を選定するにあたり、名古屋都市圏において 206 駅調査した中から、乗降客数・広場面積・駅舎型式・用途地域を要因として、図-1 に示すように24種類に駅の性格分けを行った。そして、なるべく地理的に偏らないように、各グループから1駅ずつ駅の選定を行った。しかし、表から明らかなように4種類のグループに対しては、該当駅が存在しないため、20駅を調査対象駅とした。

アンケートの配布日時としては、平成6年9月中旬から10月中旬の平日の午後2時から7時に行った。アンケートの回収は郵送方法として、10月中を有効回収期間とした。

配布対象者は鉄道の乗降客だけに限らず、送迎のために駅前広場を訪れた方やタクシー運転手をはじめとして、駅前広場の通行者に至るまで幅広く行った。

アンケート対象駅名及び各駅の配布駅と回収状況を表-1 に示す。配布枚数は駅により異なっているが、

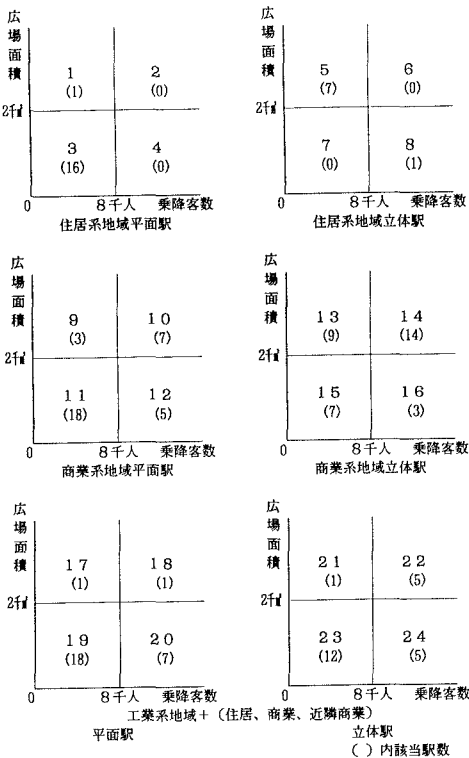


図-1 駅の分類図

表-1 アンケートの回収結果

配布日	駅名	駅記号	配布枚数	回収枚数	回収率(%)
9/14(水)	春日井駅	Q	500	167	33.4
9/20(火)	大府駅	Q	264	88	33.7
	津島駅	M	203	74	36.5
9/21(水)	枇杷島駅	G	382	141	36.9
9/22(木)	尾張一宮駅	S	300	88	29.7
	津島駅	J	500	131	26.2
9/27(火)	西岡崎駅	P	300	84	28.3
	北岡崎駅	A	300	68	22.7
10/4(火)	新日鷹駅	K	300	75	25.0
10/5(水)	富吉駅	B	300	91	30.3
10/6(木)	笠寺駅	B	250	74	29.6
	須崎駅	L	250	74	29.6
10/13(木)	阿久比駅	F	250	63	25.2
合	計	U	6210	1924	31.0

回収率では概ね30%前後となっている。

3. 単純集計及び各評価間の関連

駅前広場の広さ評価、機能性評価、総合評価の3つの側面について、駅ごとに利用者の評価を表したものが図-2～4である。各図の横軸の記号は各駅を示しており（表-1参照）、左側から広場面積が小さい順に示してある。図-2の駅前広場の広さ評価では、各駅の広場面積は異なっているが、全体的に見ても狭いと感じている傾向が多く見られている。また、広場面積が多くなるに従って、利用者の広さ意識も一様に向上するのではないということがいえる。図-3の機能性評価に対しては、一部の駅を除いて、ほぼ同様に充実していないと評価している意見が多いことが分かる。近年では、駅前広場の再整備を行う際、機能の充実が図られているにも関わらず、利用者の立場からみるとまだ充分整備されてはいないということであろう。図-4の総合評価では、全体的にみると「良い」（まあ良いを含む）の評価より「良くない」（あまり良くないを含む）の評価のほうが多くなっているが、逆転している駅もみられる。

次に総合評価・広さ評価・機能性評価の3種類の評価間の相関をみるために、クラマーのV係数を用いて全駅について属性相関分析を行った（表-2）。表から明らかなように全ての駅に対して、広さ評価より機能性評価のほうが総合評価に与える影響が強くなっている。

また、回答者の属性によって評価の差があるかないかを調べるために、各駅毎に属性毎の評価平均得点を求め、それを用いて1元配置分散分析を行った（表-3）。その結果、機能性評価の性別と年齢差に有意な差が見られた。すなわち、女性より男性の方が機能性に対して不満を持っており、年齢別では若い人の方が評価が良くなっている。

4. まとめと今後の課題

アンケート調査の結果を用いて、広さ評価・機能性評価・総合評価を中心にして研究を進めてきたが、総合評価には面積よりも機能性のほうが強く関係していることがわかった。

今後は機能性評価の内容について細かく分析するとともに、現状の駅前広場状況とアンケート調査の結果から得られた結論から、利用者が求めている駅前広場のありべき姿を考案してみたい。

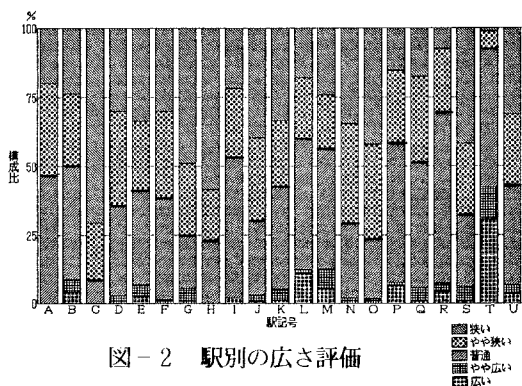


図-2 駅別の広さ評価

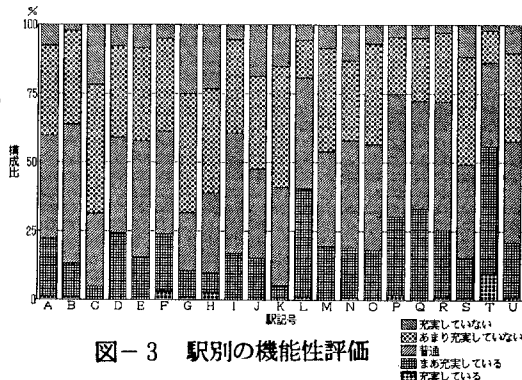


図-3 駅別の機能性評価

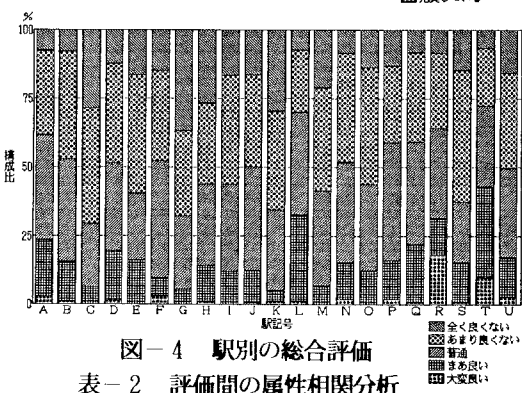


図-4 駅別の総合評価

表-2 評価間の属性相関分析

	総合評価と 広さ評価	総合評価と 機能性評価	広さ評価と 機能性評価
全 駅	0.294	0.490	0.287
平均値	0.356	0.516	0.355

表-3 属性別の各評価平均点の1元配置分散分析

特性値		要因	性別	年齢 6分類	職業 8分類
広さ 評価	F 値 有意確率(%)		1.17	1.66	0.61
			28.7	15.1	74.4
機能性 評価	F 値 有意確率(%)		4.33	3.03	0.72
			4.4	1.3	65.6
総合 評価	F 値 有意確率(%)		2.36	1.51	0.77
			13.3	19.3	61.0